

発表テーマ

記入漏れ・チェック漏れを見直して
～診療報酬アップにつながった例～

所属 看護部 2F（一般病棟）

【はじめに】

今回、機能評価・病棟指導においてカルテの記載漏れや医事課の請求漏れなどがあり、報酬につながっていなかったものを見直した結果、改善された例を報告する。

【目的】

カルテ記載を明確にし、医事課の請求漏れをなくし、正確な診療報酬につなげる。

【対象・取り組み】

診療報酬が著しく少なかった摘便・褥瘡と処置・中心静脈カテーテル挿入について記録の仕方を見直し、伝票等の作成を医事課と検討した。

【結果】

摘便については、以前は施行件数が約32～38件で、そのうち8～19件の医療請求しかできていなかったが、処置伝票を使用後確実に請求できるようになり、1ヶ月平均約40～50件で約4万～5万円の利益となった。

処置については、今までとれていなかった件数が処置伝票を使用後102件の加算となり、1ヶ月平均約5500円前後の利益となった。

中心静脈カテーテル挿入については、挿入の点数が1400点（1万4千円）と高額なため、処置伝票を一部改正し、毎日医事課に提出することで確実に請求できるようになった。

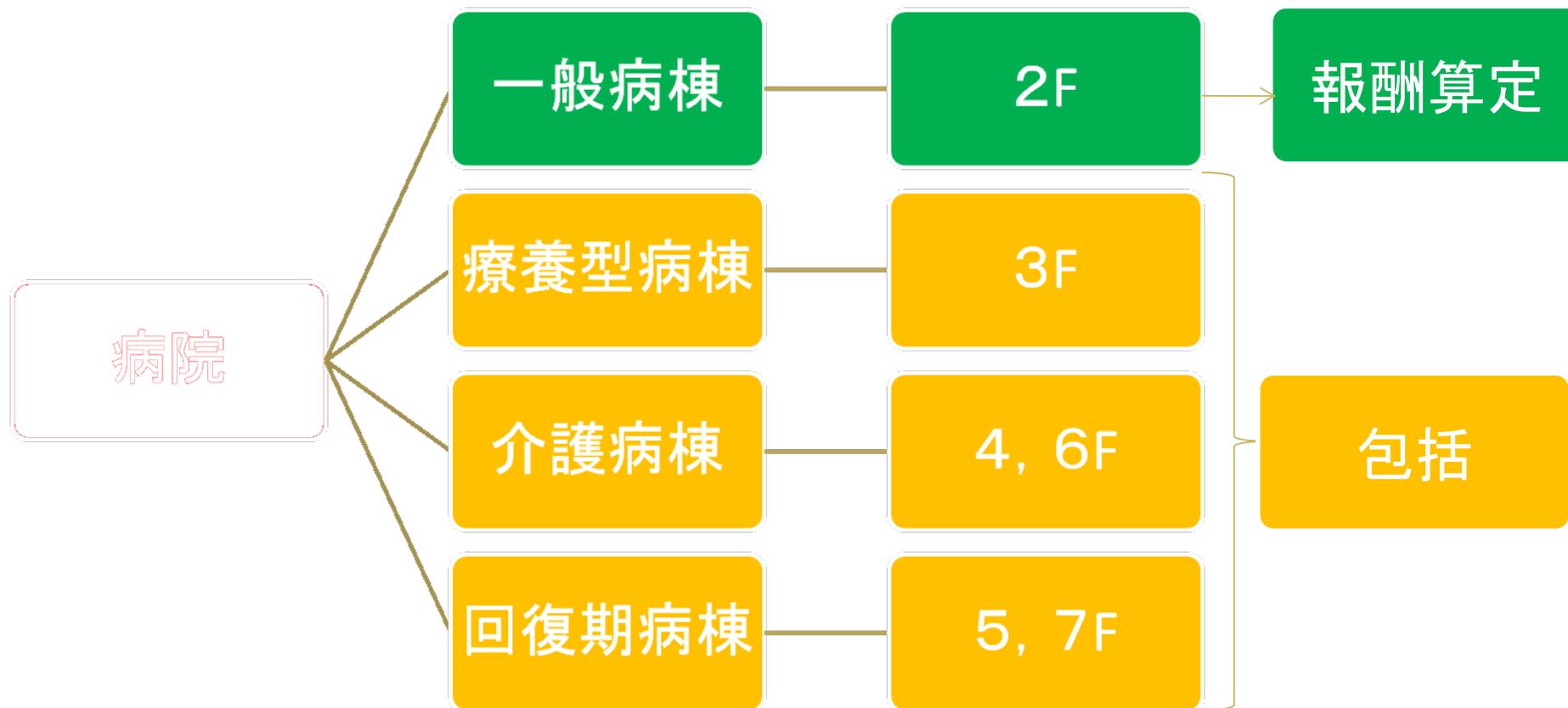
【考察】

記載漏れ・チェック漏れに対して処置伝票を作成することにより正確に請求することができ、また、自分たちが行ったことを報酬につなげるためには記載をきちんと行うことが大切だということスタッフ全員に意識付けができた。改善して1ヶ月の結果であるため今後も続けていくことでより良い成果を出せるよう努めていきたい。

記入漏れ・チェック漏れを見直して ～診療報酬アップにつながった例～

鴨島病院2Fスタッフ一同

はじめに



カルテ 検温表記載

記載しない項目	記載項目	点数
意見書	SPO2	1回/日(30 点)
認定調査	O2	酸素使用者のみ 日/65点
総合リハ計画書 (Dr II 号用紙は従来通り)	モニター 開始時間 中止時間記入	7日まで-150点 14日まで-130点 以後-50点
診断書	処置の記載	重度-98点/日(2ヶ月間) 手技料-55点 (100cm ³ 以上)
死亡診断書		
退院療養計画書	カニューレ交換	カフ付き交換-424点 カフなし交換-441点 コウケン交換-681点
退院証明書		
入院診療計画書	バルン交換	70点
リハ処方箋	CV挿入	1620点
他科受診 眼科 精神科 脳外 整形	CV入れ替え	22点
点眼	摘便	100点/1回
	GE60ml	11点/1回
経管栄養	膀胱洗	65点(14回/月まで)
	栄養チューブ交換	24点
	吸引	48点/日

事例1: 摘便

二階病棟処置伝票

平成 年 月 日 曜日

- 問題点:
 - 摘便したにもかかわらず看護師に報告ができていなかった。
 - 看護師も記載漏れがあった。



- 改善点: 2F 処置伝票を作成

	氏 名	グリセリン浣腸	摘便	カルテ記載
1				
2				
3				
4				
5				
6				
7				
8				
9				
10				
11				
12				
13				
14				
15				

排泄に関する処置伝票の手順

- ① 朝の申し送り時ケアスタッフが記載。
- ② 夕のオシメ交換後、すべて記載しリーダーに渡す。
- ③ リーダーはチームのNSへカルテ記載をするように指示。
- ④ カルテ記載をしたらチェックする。
- ⑤ 処置表は翌日医事課へ提出する。

結果

月	加算件数	施行件数	改善後
8月	8件	32件	
9月	19件	38件	
10月	48件		48件
11月	52件		52件
12月	44件		44件

- 摘便は1回100点(1000円)であり、年間約50万円の利益となります。

事例2: 褥瘡と処置

● 処置記録 ①

	部位	大きさ	処置薬剤	部位	大きさ	処置薬剤
褥瘡 処置	①左股部 ②頭部	2cm x 0.2cm ①約 4x4cm ②約 10x10cm	①オスバン消毒 ネグミンシガー5g フィルム(10x10) ②オスバン消毒 ゲンタシンカーベ 5g	褥瘡 処置	① do ② do	① do ② do
褥瘡 処置	① do ② do	① do ② do	① do ② do	褥瘡 処置	① do ② do	① do ② do
褥瘡 処置	① do ② do	① do ② do	① do ② do	褥瘡 処置	① do ② do	① do ② do
褥瘡 処置	① do ② do	① do ② do	① do ② do	褥瘡 処置	① do ② do	① do ② do
褥瘡 処置	① do ② do	① do ② do	① do ② do	褥瘡 処置	① do ② do	① do ② do
褥瘡 処置	① do ② do	① do ② do	① do ② do	褥瘡 処置	① do ② do	① do ② do
褥瘡 処置	① do ② do	① do ② do	① do ② do	褥瘡 処置	① do ② do	① do ② do
褥瘡 処置	① do ② do	① do ② do	① do ② do	褥瘡 処置	① do ② do	① do ② do
褥瘡 処置	① do ② do	① do ② do	① do ② do	褥瘡 処置	① do ② do	① do ② do

	部位	大きさ	処置薬剤
褥瘡 処置	①右股部 ②頭部	2cm x 0.2cm ①ガーゼ1枚 フィルム 10cm x 10cm ②ガーゼ1枚	①オスバン消毒 ネグミンシガー5g カーベ フィルム(10x10) ②オスバン消毒 ゲンタシンカーベ 5g
褥瘡 処置	① do ② do	① do ② do	① do ② do

事例2: 褥瘡と処置

● 処置記録 ②

処置記録 ()月分		氏名()			
部位	大きさ	処置薬剤	部位	大きさ	処置薬剤
褥瘡 ① 右腰背部 ② 頭部	1~99cm ²	オスバン消毒 ネグジニシガー5g ガーゼ、フィルム(10×10)	褥瘡 ① 〇 ② 〇	1~99cm ²	〇 〇
	100~499cm ²			100~499cm ²	
	500cm ² ~			500cm ² ~	
褥瘡 ① > do ② > do	1~99cm ²	① > do ② > do	褥瘡 ① > do ② > do	1~99cm ²	〇 〇
	100~499cm ²			100~499cm ²	
	500cm ² ~			500cm ² ~	
褥瘡 ① do ② do	1~99cm ²	① do ② do	褥瘡 ① do ② do	1~99cm ²	〇 〇
	100~499cm ²			100~499cm ²	
	500cm ² ~			500cm ² ~	
褥瘡 ① do ② do	1~99cm ²	① do ② do	褥瘡 ① do ② do	1~99cm ²	〇 〇
	100~499cm ²			100~499cm ²	
	500cm ² ~			500cm ² ~	
褥瘡 ① do ② do	1~99cm ²	① do ② do	褥瘡 ① do ② do	1~99cm ²	〇 〇
	100~499cm ²			100~499cm ²	
	500cm ² ~			500cm ² ~	
褥瘡 ① do ② do	1~99cm ²	① do ② do	褥瘡 ① do ② do	1~99cm ²	〇 〇
	100~499cm ²			100~499cm ²	
	500cm ² ~			500cm ² ~	
褥瘡 ① do ② do	1~99cm ²	① do ② do	褥瘡 ① do ② do	1~99cm ²	〇 〇
	100~499cm ²			100~499cm ²	
	500cm ² ~			500cm ² ~	

処置記録 ()月分		氏名()	
部位	大きさ	処置薬剤	
褥瘡 ① 右腰背部 ② 頭部	1~99cm ²	① オスバン消毒 ネグジニシガー5g ガーゼ、フィルム(10×10) ② オスバン消毒 ゲンタシン5g ガーゼ	1
	100~499cm ²		
	500cm ² ~		
褥瘡	1~99cm ²		2
	100~499cm ²		
	500cm ² ~		

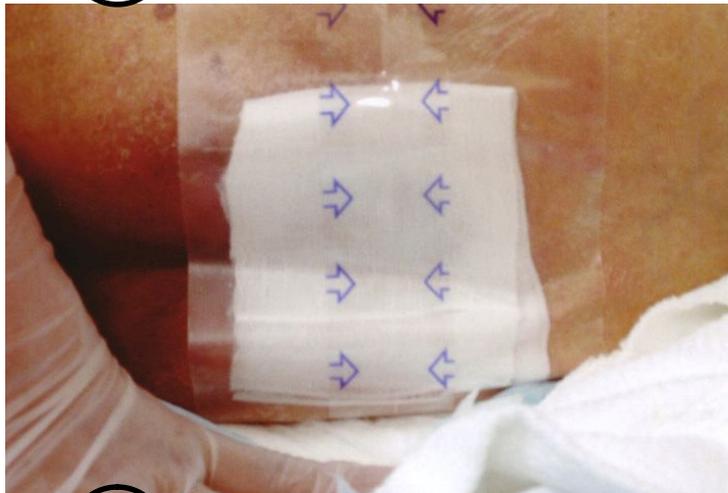
処置例



Ⓐ



Ⓑ



Ⓒ



Ⓓ

事例3：中心静脈カテーテル挿入

月	加算件数	施行件数	実際の件数
8月	7件	11件	
9月	9件	12件	
10月	14件	16件	
11月	11件	11件	
12月	8件	8件	8件

- 中心静脈カテーテル挿入は点数が1400点(1万4千円)と高い。

二階病棟処置伝票

平成 年 月 日 曜日

	氏 名	グリセリン浣腸	摘便	カルテ記載
1				
2				
3				
4				
5				
6				
7				
8				
9				
10				
11				
12				
	氏 名	CV挿入	CV入替	カルテ記載
1				
2				
3				
4				

考察

- 多忙な業務の中、カルテ記載がきちんとできていなかった。
- 最終確認がなかったためにどこかで記載漏れが起こっていた。
- スタッフと他部門で話し合っそれぞれにおいてチェック表を作ることによって明確化し点数漏れがなくなり診療報酬につなげることができた。

まとめ

- 今回の事例を通して医事課と何度か検討会を開き、連携を持つことができた。
- 記載を一つにしたことで時間の無駄をなくしたほか、事故防止にもつながった。
- 記載をきちんと行うことが大切だということをスタッフ全員に意識付けができた。
- 看護研究の成果が出たことは事実であり、今後も続けていくことで診療報酬アップにつなげていきたい。

この看護研究にあたり 協力してくださった
医事課の方々、レントゲンの方々、
先生に深く感謝いたします。

ご清聴ありがとうございました。

2Fスタッフ一同